

## 平成30年度学校自己点検・自己評価結果

この度、私立専門学校等評価研究機構が実施する第三者評価のための評価基準書を参考に「平成30年度学校自己点検・自己評価」をまとめましたので、結果を次のように公開いたします。

大項目の評価では、3.0台に満たない大項目が10項目中5項目あります。前年度と比べ1項目減りました。また、6項目は少しですが改善できました。

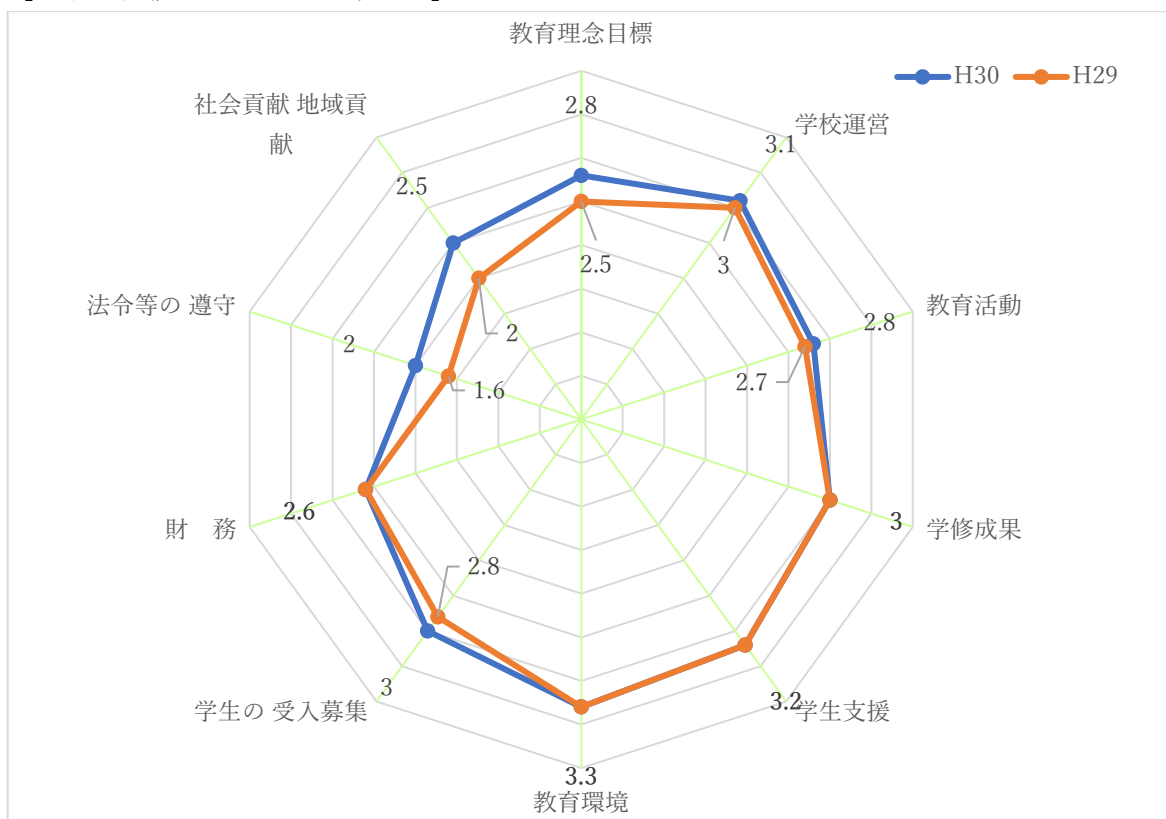
今後もカリキュラム評価を行い、学生の学習環境の改善に努力してまいります。

### 【大項目評価】

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
項目	教育理念 目標	学校運営	教育活動	学修成果	学生支援	教育環境	学生の 受入募集	財 務	法令等の 遵守	社会貢献 地域貢献
H30	2.8	3.1	2.8	3.0	3.2	3.3	3.0	2.6	2.0	2.5
H29	2.5	3.0	2.7	3.0	3.2	3.3	2.8	2.6	1.6	2.0

### 【大項目評価のレーダーチャート】



### 【大項目毎の自己評価の要約と詳細】

## (1) 教育理念・目標 2.8

教育理念・目的は明確であり、卒業時の到達目標も目的に沿った内容である。また、アクティブラーニングやシミュレーション教育等を取り入れた授業の工夫はなされている。しかし、理念と科目の関連性や各科目間での不足や重複内容の検討が不十分である。そのため、卒業時の学生像に到達できているかの評価ができていないことが明確になった。2022年のカリキュラム改正では育成したい能力と科目の関連性を明確にしていきたい。そのための現状のカリキュラム評価を予定している。

## (2) 学校運営 3.1

卒業生像は明らかになっているが、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについては明文化する必要がある。学校運営に関しては、学則に沿って教員会議で検討し、校長報告後決定しているので適正であると考え。また、運営に関する業務の一部は委員会として規定を設けているが、規定がないまま係として担当している業務も多いため検討課題である。学生情報の共有は面接用紙のほか、学生カードでの方法を開始した。17名の教員の保健師助産師看護師法の養成所指定規則の教員資格の取得率は70.5%である。そのため、専任教員養成講習会に毎年1名ずつ計画的に参加させている。事業計画、業務内容は毎年見直しを行っている。

## (3) 教育活動 2.8

学校として一番重要な教育活動については、育てたい学生像を達成するための科目だてになっていない部分もある。シラバスの見直しを行い、各科目を受講することで学生のどの能力がかわれるのかを明確に記載する必要がある。また、授業の評価、教育活動の評価ができていないことも明らかになった。卒業時に身についた能力を測り、卒後1年目の能力の獲得状況を比較することで学生の成長が明らかになる。そして、当校の基礎教育の成果がそこに反映されることが考えられる。また、自己点検・自己評価の次に、学校関係者評価を2019年度に実施予定である。

## (4) 学修成果 3.0

就職については附属病院の就職支援を行っており、目標である卒業生の90%以上は維持できている。就職説明会は当校の校舎内で実施しており、他病院を就職する学生についてはアドバイザーとの相談のもと支援をしている。

今年度の退学者率4.9%は改善の余地を残すところである。健康上の問題、学力不足による進路変更がその理由に挙げられるが、早期に対応できる体制づくり、具体的な学習支援を考えていかなければならない。国家試験の合格率は新卒の場合、全国平均を上回っている。

卒業生の社会的評価をみるための就職先への状況調査は行っていない。卒業生の評価は学校の評価に通じるので今後の検討課題である。就職先や同窓会の協力を得ながら進めていきたい。

## (5) 学生支援 3.2

健康管理体制は、日常的にできている。学校保健法に基づく健康診断を1回/年実施している。健康不安のある学生に対しては、アドバイザーを通して相談、支援を行っている。インフルエンザ流行時も実習病院と連携しながら対策を講じて拡大防止に努めている。また、月に2回臨床心理士による学生相談室を設け支援している。利用者が少ない状況にあり、原因を探り利用数を増やしていく必要がある。学生の自治会活動には支援教員2名を配置している。学生の主体性に任せたいところだが、教員に依存的な傾向にあるので、主体的に企画、実行できるような

支援方法を考える必要がある。また、自治会の役員間の連携は取れているので、それを全学生に浸透できるように支援していく必要がある。また、在校生の率直な意見を聴くための意見交換会を2月に実施した。保護者の意見を聴く機会は、入学式後の保護者会のみなので学業の進捗に伴う問題点等についての意見を聴く機会が必要である。就学資金については、月額3万円で36か月分を貸与しているので、経済的支援としては十分であると考えている。

卒業生に対しては、入職4か月経過時に里帰りの会を開催している。

#### **(6) 教育環境 3.3**

施設については、築16年を経過しているが、校舎・設備には問題なく管理されている。教育用具については、破損等は迅速に対応し学生がスムーズに学習できるよう配慮している。また、最新のシミュレーター等も購入でき、シミュレーション教育の導入に繋がってくると思われる。教育用具は、数も種類も豊富にあり、演習などは円滑に行なっている。

防災・安全管理体制については、運用出来ているが見直しをして、よりセキュリティが高まるようにしていくことが必要である。年1回の消防署と連携した消防避難訓練時の教職員の役割は、1年間固定した役割としている。

#### **(7) 学生の受入募集 3.0**

学生募集に関しては、昨年度よりオープンキャンパスを1回増やし、年6回実施した成果もあり、入試志願者も4%増えた。学校説明会も教職員が一丸となり、積極的に訪問し、学校PRを行なった。今後は、保護者の方や、高校教員に向けての学校説明会等も検討すべきと考えている。学習習慣のついていない学生の確保のためには、推薦入学試験受験者の評定設置の検討が必要である。入学者の傾向については、データ分析等が必要となってくるため、今後取り組んでいきたい。

#### **(8) 財務 2.6**

財務に関しては、予算通りに遂行している。今後は財務担当者との連携が検討される。今後は、目標に沿った予算案作成と計画的な執行管理を行なう必要がある。

#### **(9) 法令等の遵守 2.0**

平成26年度から教育活動の内容全般の成果を年報でとりまとめ、関連施設、県内看護学校に送付して公開している。授業評価については昨年度より専任教員1科目について実施しているのみであり、本人以外には公開していない。学校評価の充実を図っていかなければならない。

評価が低い原因は、自己点検・自己評価の結果の公表をしていないことと、学校関係者評価を実施していないためである。次年度は実施し公表していく計画である。

#### **(10) 社会貢献・地域貢献 2.5**

地域交流については、施設、関連機関との交流はできているが、地域の方々との交流をどのように深めるのかは課題として残る。具体的には地域の方々へ文化祭のお誘いを工夫して来校者の増加を目指す。また、地域の防災訓練などに参加できるように検討する。

また、学生ボランティアについても積極的に奨励した。臨地実習施設の行事の参加やさいたま国際マラソン、東京マラソンのボランティアに参加した。

各教員の専門分野を生かした社会貢献としては、外部機関からの要請に応じて講師派遣など積極的に協力している。